

力石



〔登錄年月日〕昭和六二年三月三〇日
〔種別〕有形民俗文化財（娛樂・競技）
〔名稱〕力石
〔點數〕一四個
〔所有者等〕春日神社
〔所在地等〕宮前三―一二

力石

明治一七年（一八八四、刻銘）から昭和初期にわたって奉納されたもので、大正末年頃のものが多い。石には重量と奉納者名などが刻まれ、重いもので「七拾三貫目」、軽いものでも「三拾貫目」の刻銘がある。ただし、この貫目は軽い石はともかく、重い石については若干上乘せした数値であるといわれている。

これらの力石はすべて地元の若者達が担いで奉納したもので、娯楽の少なかつた当時の若者達にとつては恰好の遊びであった。

石担ぎの行事は祭礼の時ではなく、主に夏の普段の日に行われ、二〇歳過ぎのものが行うものとされていたが、時には一八歳の者が行ったこともあったといわれている。

担ぎ方は下帯一つではだしになり、男二人が向きあう。一人が石の起こし手であつて、この人が石を起こすと、腰をかかめていた担ぎ手が石を膝の上に受ける。そして体をゆすりながら石を上にあげてゆき、最後に石を肩の上のせ、しばらく静止してから下に降ろしたという。

明治から昭和期における杉並地域の農村青年の生活の一端をうかがわせる資料である。

【文化財所在地】

